

陸前高田市竹駒地区民生児童委員協議会 ～世代間交流活動について～

(平成 26 年 6 月 16 日掲載)

竹駒地区は、「奇跡の一本松」から気仙川上流 5 キロメートルほどに位置し、東日本大震災では被害が大きく、4 名の委員が被災しました。

竹駒地区民児協は、現在 7 名で活動していますが、竹駒小学校の「祖父母に学ぶ会」および「竹駒 21 の会」による世代間交流活動に協力しています。

竹駒小学校「祖父母に学ぶ会」では、公民館主催の「高齢者学級」の方がたが中心となって、郷土食づくり、玩具づくりや昔遊び、縄をなう体験などの指導を行なっています。この取り組みは、30 年以上継続して実施され、地区の全民生委員・児童委員の他、老人クラブや地域住民などの協力を得て実施されています。

具体的には、玩具づくりでは、竹とんぼや水鉄砲、竹馬、竹スキーづくり、昔遊びでは、めんこ、こままわし、おはじき、お手玉などを実施しています。

活動にあたっては、青少年健全育成助成金を活用し、民児協が、郷土食づくりの材料費の助成を行なっています。

「竹駒 21 の会」は、町内の若手有志の任意団体で、民児協が運営への協力をしています。震災後は、さまざまな面で苦労が多い様子でしたが、小中学生とその父兄を対象に、夏の川原でのバーベキュー大会、秋の氷上山登山、新春餅つき大会とさまざまな行事を企画し、喜ばれています。来春の新春餅つき大会には、全委員での協力体制を取りたいと考えています。

去年は、参加者の減少などから世代間交流活動の継続が難しくなりつつあるなか、「祖父母に学ぶ会」や「竹駒 21 の会」の運営を長期間継続してきた方がたへの労いと、昔の遊びや玩具づくりができる人材の発掘・育成のため、「竹駒町世代間交流指導者等のご苦労さん会」を開催しました。ご苦労さん会には、高齢者学級、竹駒 21 の会、竹駒小学校、世代間交流の元指導者、民生委員・児童委員 O B の方がた 50 名が参加し、交流を深めました。

震災以降、町内では、町民大運動会が開催できず、交流の場が少なくなっており、また、昔の遊び、玩具づくりができる人材も少なくなりました。こうした状況を少しでも改善するため、民児協としても、地域住民や各種団体と連携を密にして、世代間交流活動の「仲立ち」の役割を果たしていきたいと考えています。



世代間交流指導者等のご苦労さん会の様子